

週報

こひつじ

第41巻 27号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

イエスのバプテスマ

さて、民衆がみなバプテスマを受けていたころ、イエスもバプテスマをお受けになり、そして折つておられると、天が開け、聖霊が、鳩のような形をして、自分の上に下られるのをご覧になった。また、天から声がした。「あなたは、わたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ」

(ルカ 三の二一、二二)

その一 聖霊がイエスの上に下った

イエスが、ヨハネのところに来たのであって、そのときに起こった、バプテスマを受けられたとき二つのことが、その後のイエスの二つのことが起こった。

生涯の原動力となったのである。

まず「天が開け、聖霊が、鳩の

ような形をして」イエスの上に下った。

次に天からこのような声があった。

「あなたは、わたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ」

バプテスマは、いわば、イエスな力、つまり聖霊に動かされて送るの公生涯の就任式とも言うべきも

にも必要である。

まず聖霊がイエスに下ったことだが、それは何を意味するか。

イエスはその生涯を、他の大きな力、つまり聖霊に動かされて送られたということだ。

私たちも、イエスと同様に、自分の力ではなく、外から与えられる力によって生きなければならぬだろう。その力を与えてくださる方が聖霊なのである。

有名なイエスの山上の説教で命じられていることは、どれもすばらしいが、一つとして自分の力でやれるものはない。

「あなたの右の頬を打つような者には、左の頬も向けなさい」

と言われているが、はたしてそれを実行できる人がどれだけいるだろうか。

ある時、ペテロはイエスに尋ねた。

「主よ。兄弟が私に対して罪を犯したばあい、何度まで赦すべきでしょうか。七度まででしょうか」とイエスは言われた。

「七度まで、などとはわたしは言いません。七度を七十倍するまでと言います」

ペテロは驚いた。それは計算を超えた世界だったからだ。

私たちもそれを読んで、途方にくれる。とてもできないと思う。

が、聖霊が働くのは実はそのときなのだ。

パウロは言った。

「善をしようとする意志は、自分にあるが、それをする力がなない。・・・わたしの欲している善はしないので、欲していない悪は、これを行っている」(ロマ七の一八、一九)

悲しいけれど、それが私たちの現実なのではないか。しかし、

「ああ、わたしは、なんというみじめな人間なのだろう」(同二四)

と、パウロとともに叫んだその瞬間に、聖霊が私たちに代わって善を行なってくたさるのである。

このようにクリスチャン生活とは、他の別の力によって生かされることなのだ。

私たちは、神の恵みなしには、ただの一つの善も行なえない。もし行なえたとするなら、それは聖霊によったのであり、決して私たちの力によったのではない。私たちにできるのは、ひたすら神にすることだけである。

そこでアウグスチヌスは祈った。「私は弱い人間です。自分の力で

は何一つ善いことができません。

意志することもできません。何が善であるかを知ることでもできません。そういう私を神よ、あわれんでください。そして私の心を照らし、導いてください」

さらに彼は言った。

「こう祈ることすら、神のあわれみによるのでなければできません。よい。するとまた聖霊が新しい力神のあわれみを乞うこと自体、神のあわれみなしにはできないのですから」

イエスも自分では何もなさらなかった。すべては聖霊によった。そこで言われた。

「私は父を見ている以外に、自分では何もできません」と。

では、聖霊による人生を生きるにはどうしたらよいのか。

熊本のナザレン教会に磯崎という牧師さんがおられたが、ある説教で、ご自分の信仰の極意をこう語ってくださった。

豊かな信仰生活の秘訣とは、

第一、努力しない。

第二、ゆだねる。

第三、しかし行動する。

私は、それを聞いて、なかなか

味わい深い言葉だと思った。

クリスチャン生活は努力してできるものではない。だからすべてを神にゆだねる。といって何もしないわけではない。ただ行動する。つまり、自分のできることをやる。今日すでに聖霊が力をくださ

っていることをやる。それだけでよい。するとまた聖霊が新しい力をくださって、次のことができるのである。

こうして一步一步前進してゆく。これが聖霊に導かれる生活なのではないだろうか。(続)

今日の礼拝

関連教会牧師会報告(一)

きたジョンさんは、われわれにと

ってどんな存在だったかについて、それぞれの牧師たちに話してもらったのだが、みな共通して言ったのは、以下のようなことだった。「どんなときも自分より他人を優先する人だった」

「だれよりも早く人の必要に気がつき、その必要に応えるのに、彼ほど早く実行に移せる人はいなかった」

彼の教会は決して大きくはない。にもかかわらず、一〇〇〇人を超える人びとが彼の告別式につどつたのは、クリスチャンであろうとなかろうと、彼とかがわった多くの人が、彼の愛と親切に深く心を動かされたからに違いない。

ジョンさんの妻直美さんも、長女のルツさんも、自分たちの今の気持ち涙ながらに正直に語ってくれた。

彼らは言った。

「こんなに自由に話せたのは、夫であり、父であるジョンを、みなさんが、心から愛してくださっているのを感じたからです」と。
